11 通町

日本橋を中心に神田から新橋の先までの
今の銀座中央通りのメインストリートをいう

日本橋より東海道方面を望む。日本橋一丁目。

左が三越本店。右が三井信託銀行。絵と同じ方向から見る。
日本橋室町一丁目。

左が高島屋で丸善のビルが見える。日本橋二丁目。

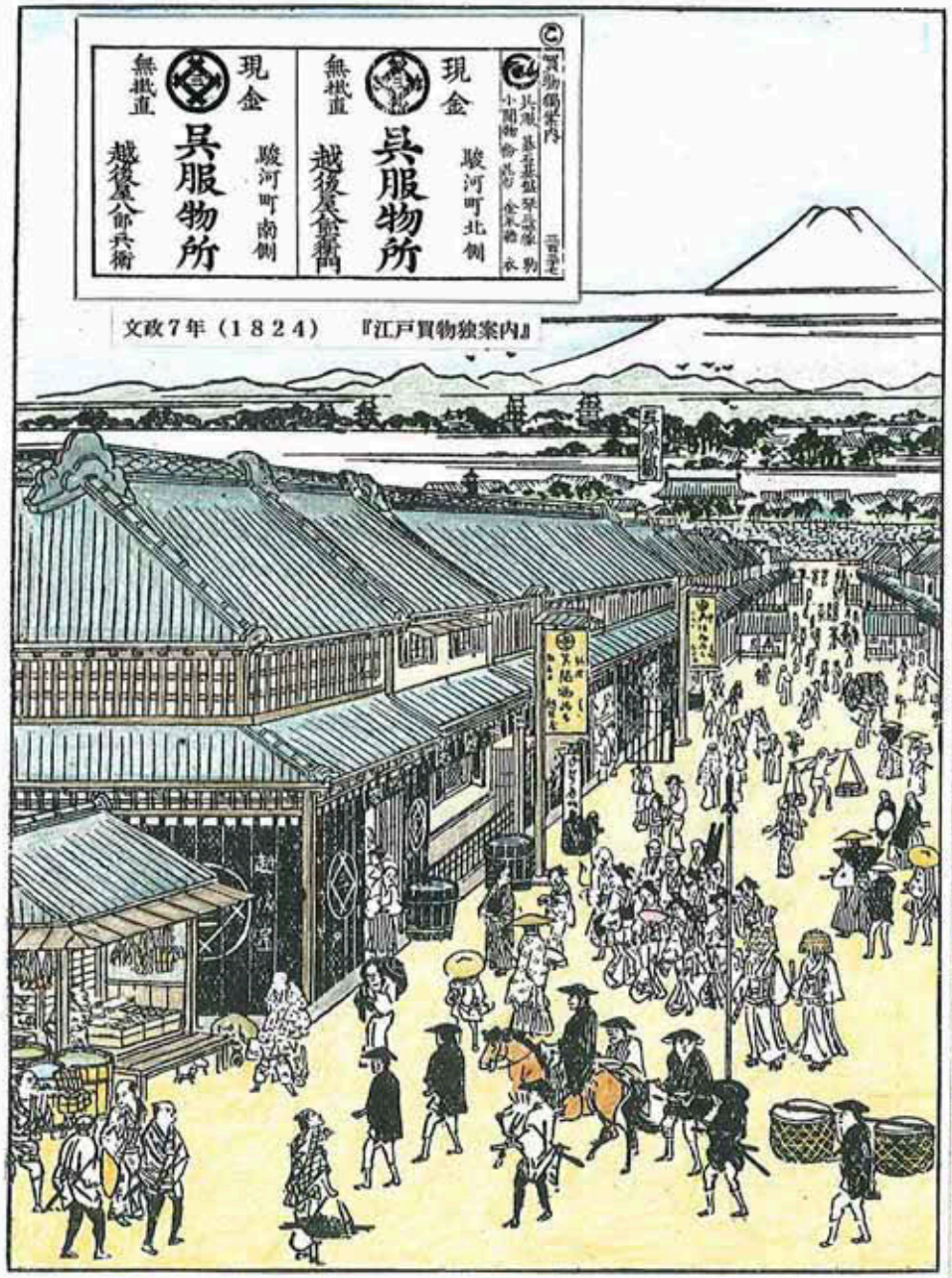
明治の頃の丸善。看板が英文になっている。

駿河町

越後屋は延宝元年（１６７３）伊勢松阪の出の三井高利が開いた呉服店。明治になり「三越呉服店」となった。

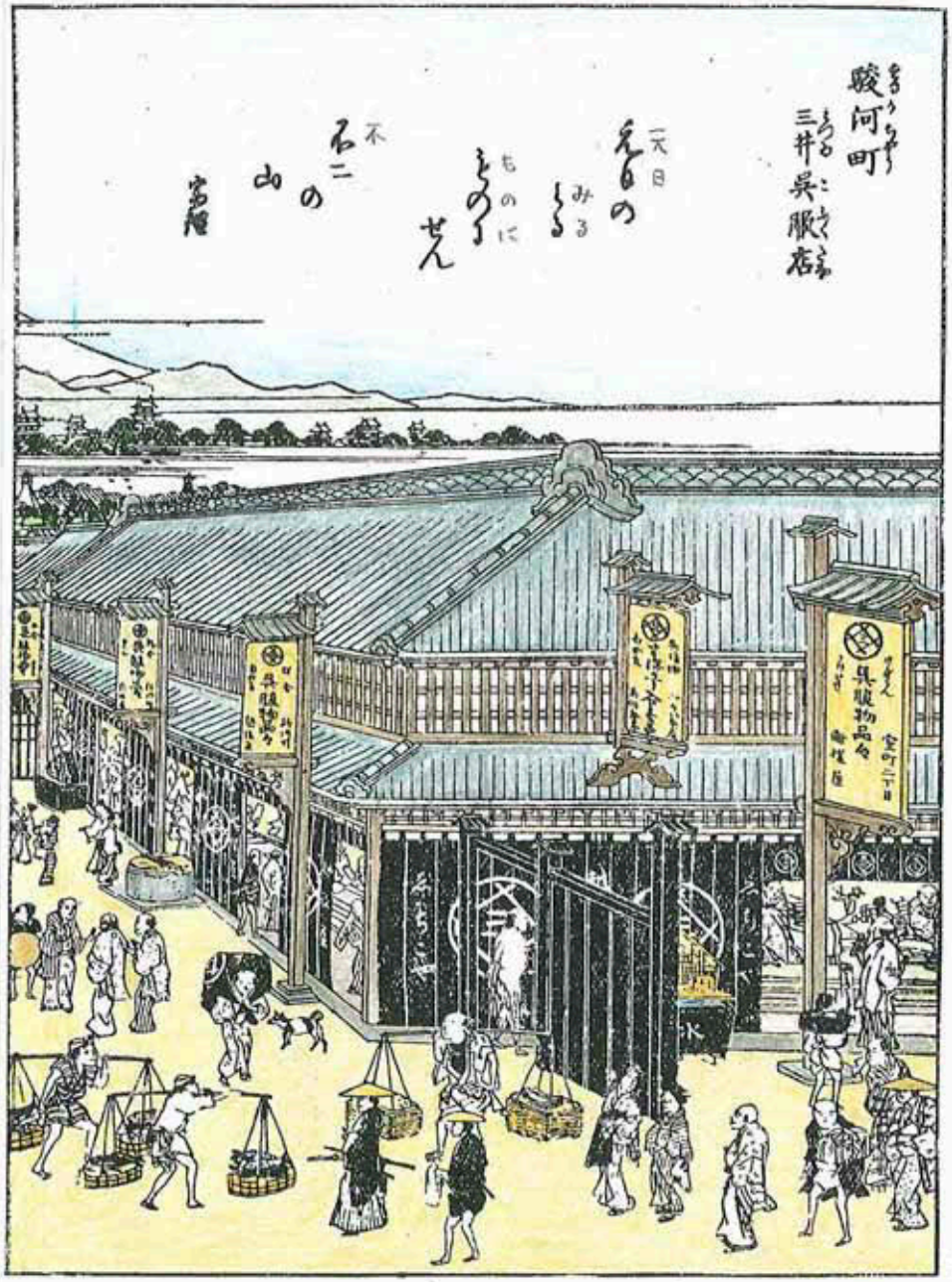
ここから富士が見えるのでこの名が付いた。遠くに江戸城が見える。昭和７年まであった町名。

通町　北の方筋違橋の内、神田須田町より南へ、今川橋・日本橋・中橋・京橋・新橋を經て、金杉橋の邊迄の惣名にして、町幅十間餘あり。



文政７年（１８２４）『江戸買物独案内』

左側の小屋は木戸番屋



看板に「呉服物品々」「古婦人具物志那々」「げんきんかけねなし」とある

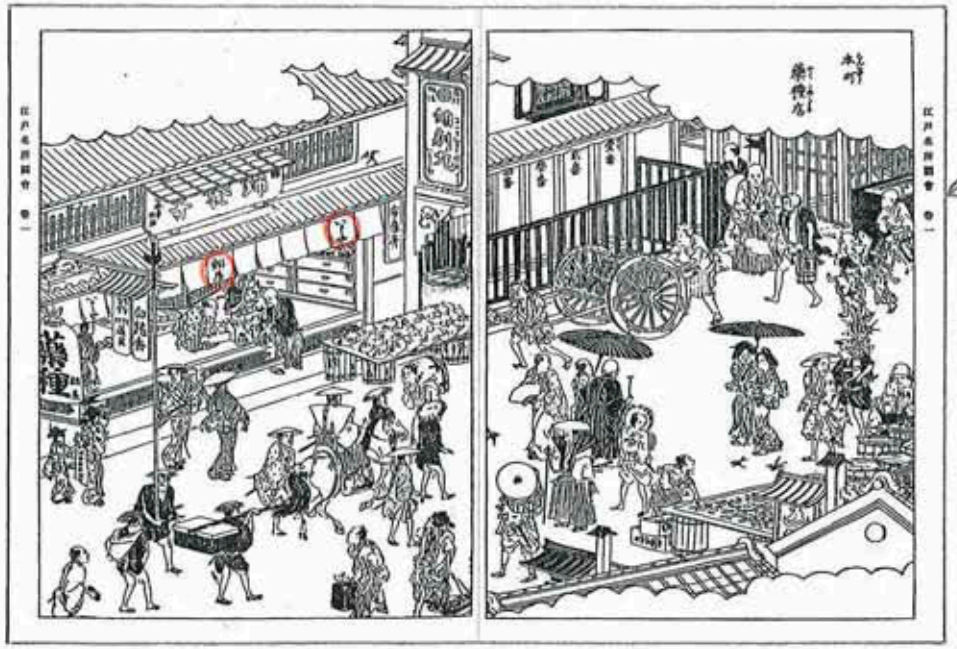
江戸名所圖會　巻一

突き当たりと右側には木戸があり、木戸番がいて朝６時に木戸を開け夜１０時に閉めていた。

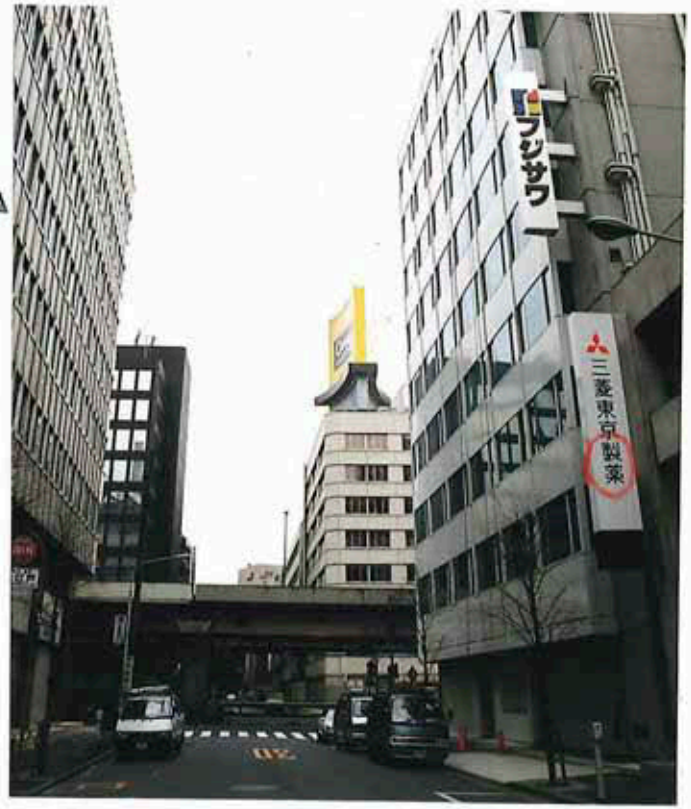
12 大伝馬町通りの各店

＝旧日光街道の道筋にあたる＝

中央区日本橋本町・大伝馬町



同じ通り



A　薬屋問屋の「鰯屋」。漢方薬を売っていた。ここにはいわしやの屋号を持つ店が４軒あった。旧本町三丁目。

少し前まではこの通りには製薬会社が残っていた。

『中央区文化財めぐり』

寛保３年（１７４３）京都の「大丸」がここに出店した。
昭和２９年東京駅に進出した。
旧通旅籠町。

広重『名所江戸百景』

C　錦絵を売る「鶴屋」店の中には錦絵がたくさん積んである。本問屋の大きな看板が出ている。旧通油町。

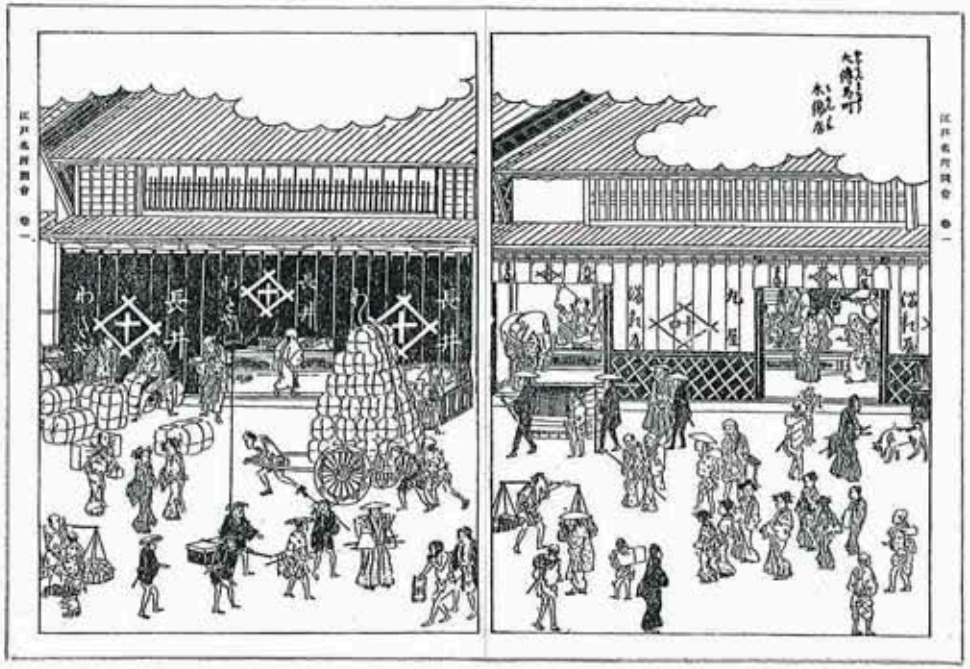
江戸の名産にして
他邦に比類なし
中にも極彩色殊
更高貴の御版
びにもなりて諸国
に賞美する事尤
夥し

絵の文章

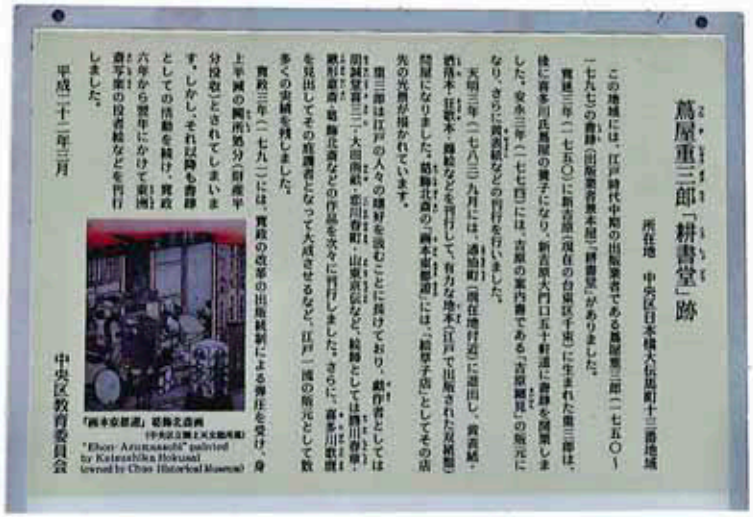
「鶴屋」があった所の現在の様子。
今の日本橋大伝馬町１４。

令和2年6月9日 撮影

『江戸買物独案内』



B　木綿店の「綿屋」と「丸屋」で、この辺は木綿問屋が多かった。旧大伝馬町一丁目。



蔦屋重三郎「耕書堂」跡

所在地　中央区日本橋大伝馬町十三番地域

この地域には、江戸時代中期の出版業者である蔦屋重三郎（一七五〇～一七九七）の書肆（出版業者兼本屋）「耕書堂」がありました。

寛延三年（一七五〇）に新吉原（現在の台東区千束）に生まれた重三郎は、後に吉原の川岸茶屋の養子となり、新吉原の案内書である「吉原細見」の販元になり、さらに黄表紙などの刊行を行いました。

天明三年（一七八三）九月には、通油町（現在地付近）に進出し、黄表紙・洒落本・狂歌本・錦絵などを刊行して、有力な地本（江戸で出版された絵草紙）問屋になりました。翌年北斎の「画本東都遊」には、「絵草子店」としてその店先の光景が描かれています。

重三郎は江戸の人々の趣好を汲むことに長けており、戯作者としては朋誠堂喜三二・大田南畝・恋川春町・山東京伝など、絵師としては勝川春章・鳥居清長・歌麿・北斎などの作品を次々に刊行しました。さらに、喜多川歌麿を見出してその庇護者となって大成させるなど、江戸一流の版元として数多くの資産を残しました。

寛政三年（一七九一）には、寛政の改革の出版統制による弾圧を受け、身上半減の処罰（財産半分没収）とされてしまいます。しかし、それ以降も書肆としての活動を続け、寛政六年から翌年にかけて東洲斎写楽の役者絵などを刊行しました。

平成二十二年三月

中央区教育委員会

「画本東都遊」花魁之店画（中央区立郷土天文館所蔵）
"Ehon Azumasashi" painted by Katsushika Hokusai (owned by Chuo Historical Museum)

鶴屋と競っていた「耕書堂」の説明板がある。

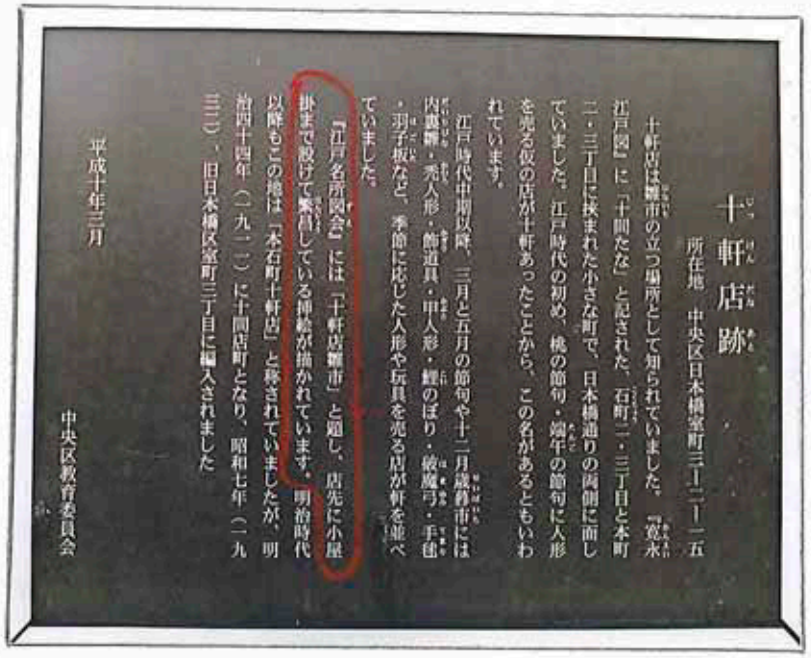
13 十軒店（だな）

中央区日本橋室町三―二 周辺

＝雛人形などを売る店が十軒あったので付いた名＝

左側のビルとその向い側の所にあった。 令和2年6月9日 撮影

以前あった「玉貞人形店」日本橋十軒店と建物にある。今はない。



十軒店跡

所在地　中央区日本橋室町三丁目二番一五

十軒店は雛市の立つ場所として知られていました。『寛永江戸図』に「十間たな」と記された、石町二・三丁目と本町二・三丁目に挟まれた小さな町で、日本橋通りの両側に面していました。江戸時代の初め、桃の節句・端午の節句に人形を売る仮の店が十軒あったことから、この名があるともいわれています。

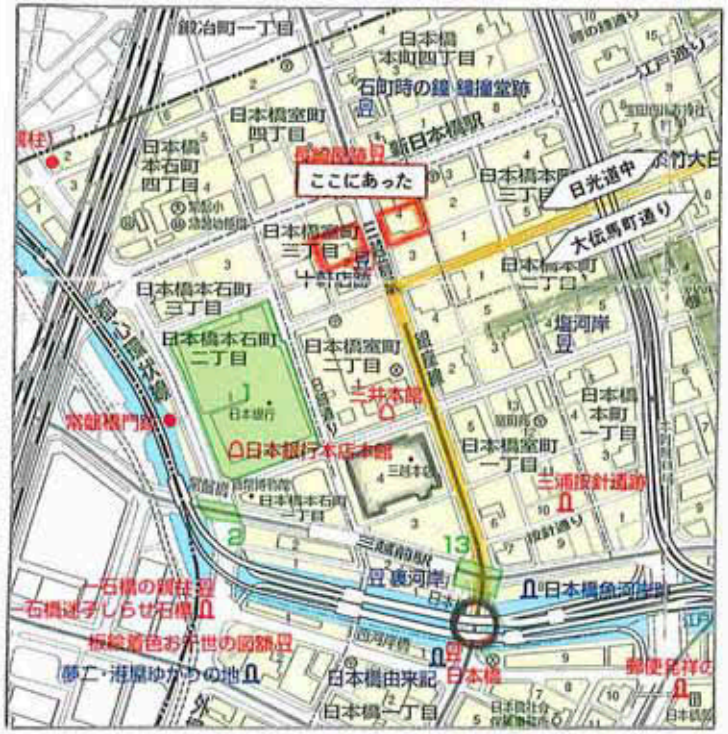
江戸時代中期以降、三月と五月の節句や十二月歳暮市には内裏雛・禿人形・飾道具・甲人形・鯉のぼり・破魔弓・手毬・羽子板など、季節に応じた人形や玩具を売る店が軒を並べていました。

『江戸名所図会』には「十軒店雛市」と題し、店先に小屋掛まで設けて繁昌している挿絵が描かれています。明治時代以降もこの地は「本石町十軒店」と称されていましたが、明治四十四年（一九一一）に十間店町となり、昭和七年（一九三二）、旧日本橋区室町三丁目に編入されました。

平成十年三月

中央区教育委員会

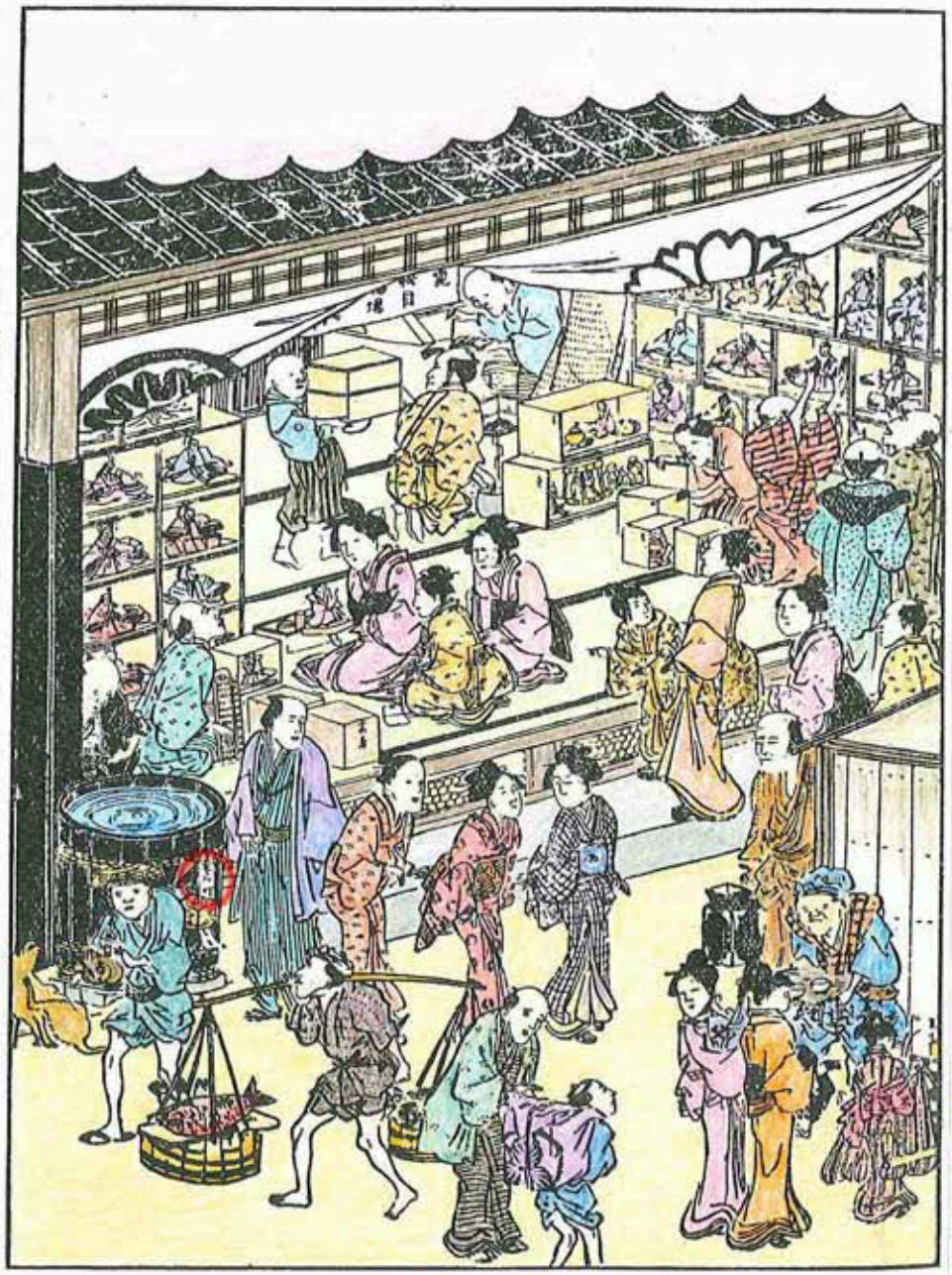
新らしい標識が左側のビルの角にある。



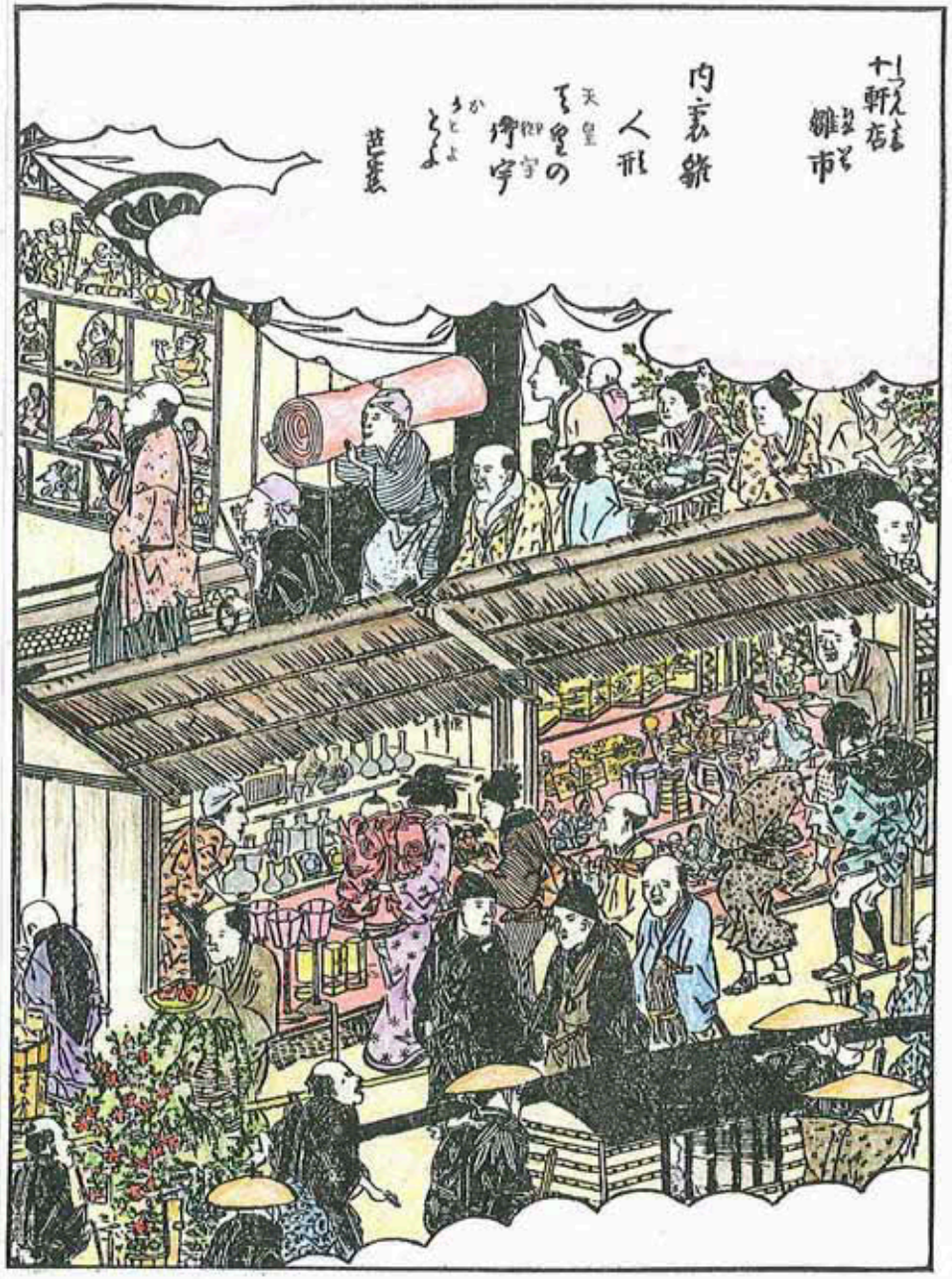
十軒店

ひな祭のにぎわいの様子。２月３月が雛人形市、４月５月が五月人形市、１２月が羽子板市が立った。仮の店舗では人形以外の小道具が売られている。

十軒店　本町と石町の間の大通をいふ。桃の佳節を待ち得ては、内裡雛・裸人形・手道具等の塵軒端を並べたり。端午には、冑人形・菖蒲刀こゝに市を立てゝ、其賑をさ〳〵彌生の雛市におとらず。又年の暮に至れば、春を迎ふる破魔弓・手毬・破胡板を商ふ。



防火用水には「本石町」の名が入っている。



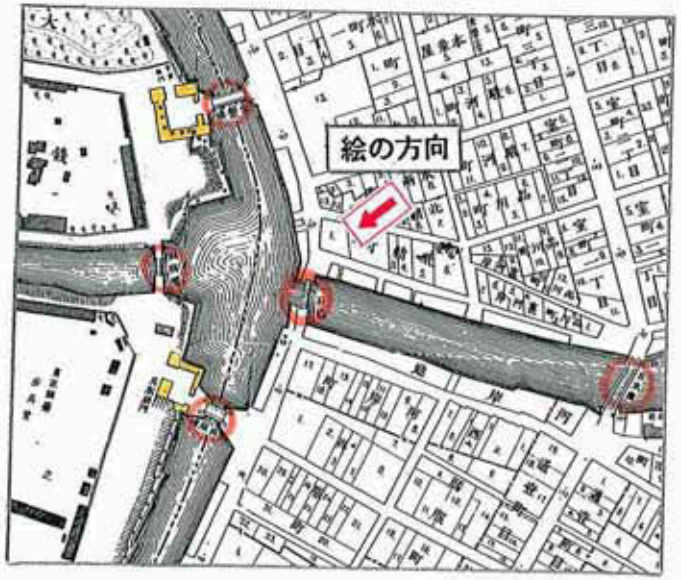
14 一石橋

中央区日本橋本石町一丁目

「八ッ見橋」といわれ、かってはこの橋から八っの橋が見えた

絵の方向の常磐橋から一石橋を見る。右側に銭瓶橋があった。

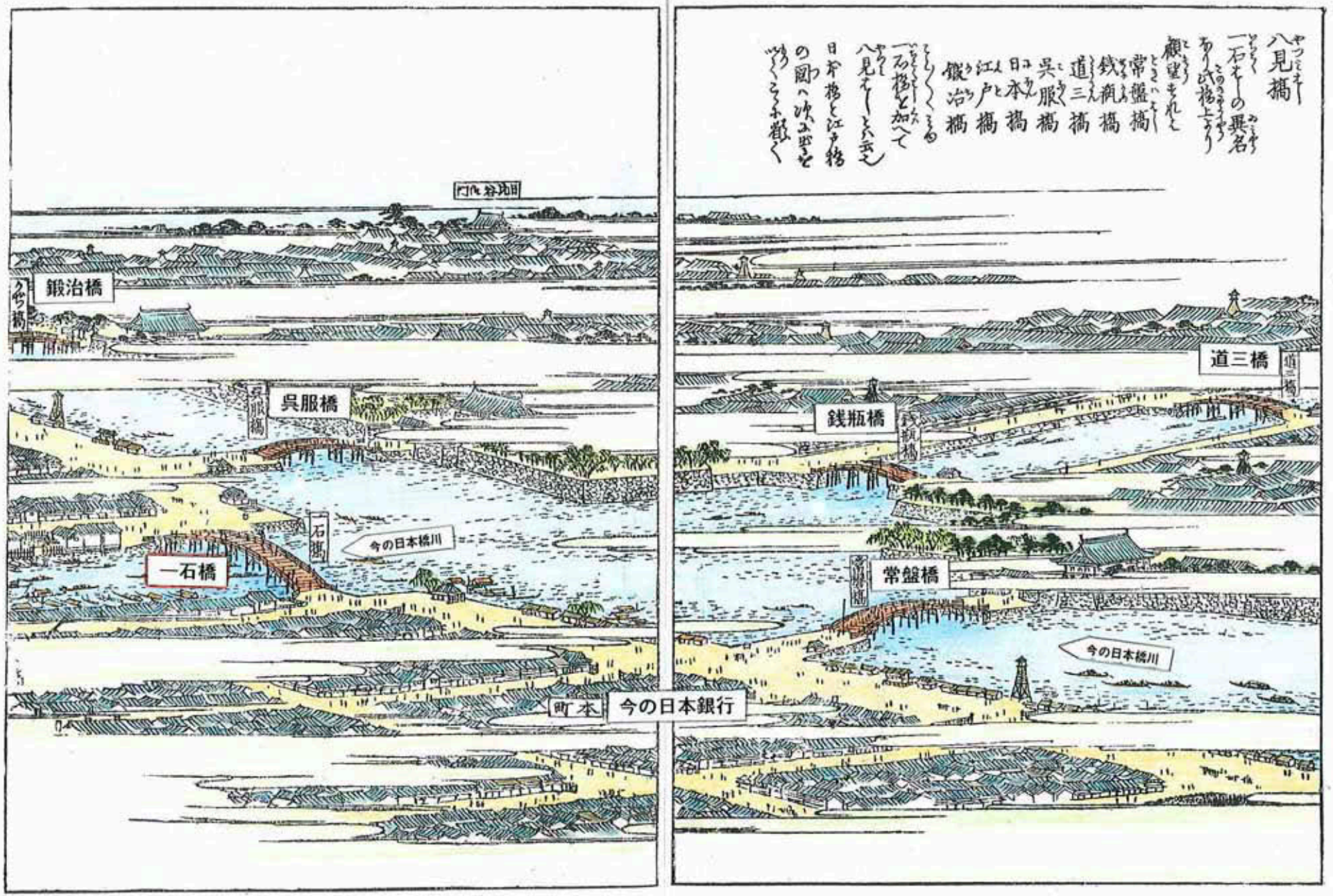
広重『名所江戸百景』で西側の江戸城の方向を見ている。



明治１８年の「迅速図」にはまだ堀が残っている。

八見橋

日本銀行の上空から俯瞰して見た絵で、現在は日本橋川が常磐橋から一石橋の下を左へ流れている。



一石橋　日本橋より二丁斗西の方、同じ川筋にかゝる。此橋の南北に後藤氏兩家（金座後藤庄三郎屋敷　後藤縫殿助）吳の宅ある故に、其昔五斗〳〵といふ秀句にて、俗に一石橋と號けしとなり。

15 吉原町旧地

中央区日本橋人形町二丁目・富沢町

＝浅草へ移る前の江戸の歓楽地＝

古い家並みを残す住吉町の角。右にゆくと大門通りに出る。

明治２０年頃の元吉原の様子。江戸の頃は江戸町・けんぞうす町・京町・新町・角町の５つの町があった。

創業天明３年（１７８３）の「うぶげや」刃物店。

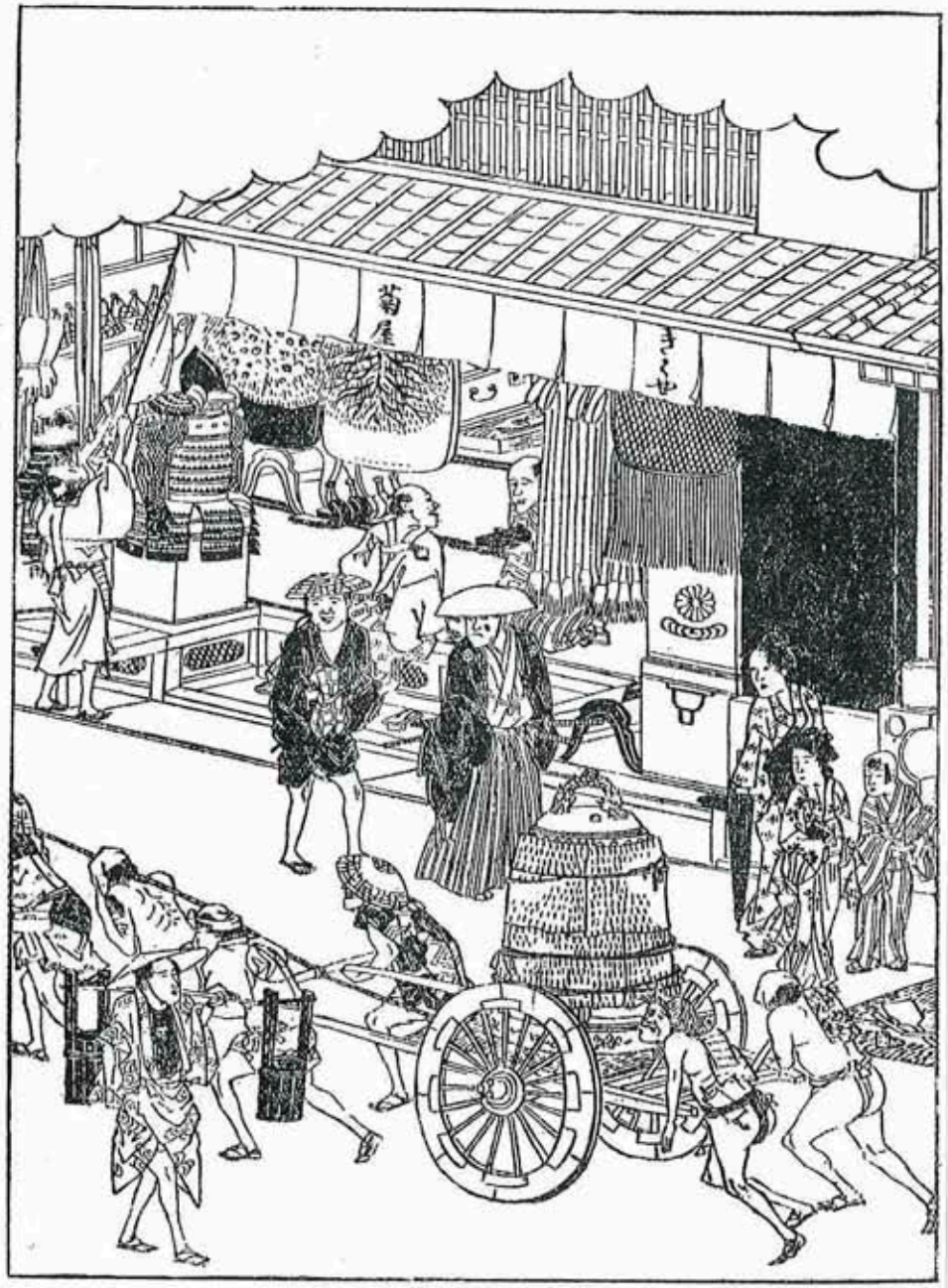
幕府の医師岡本玄治の住まいの名。将軍秀忠や家光の病を治して名をあげた。

今も古い家が残っている。

大門通り

大門の通りの賑わいの様子が描かれている。

元和4年（1618）吉原町の名主だった庄司甚右衛門が開いた遊廓。明暦の大火（1657）のあと浅草へ移る。約40年程ここにあった。当時は昼間だけの営業で、武士が多かった。



吉原町舊地　和泉町・高砂町・住吉町・難波町等其舊地なり。

慶長十七年庄司甚右衛門といへる者、街を一所に定め給はり度き旨官府に訴へ奉りし故に、初て此地を賜はり、花街とす。

16 歌舞伎芝居

中央区日本橋人形町三丁目

＝浅草猿若町へ移る前の歌舞伎芝居小屋があった所＝

B　葺屋町の「市村座」があった所。寛永１１年（１６３４）ここで興行を始めた。元は村山座といった。

A　右側が堺町の「中村座」があった所。慶安４年（１６５１）中橋から禰宜町を経て、ここへ移った。

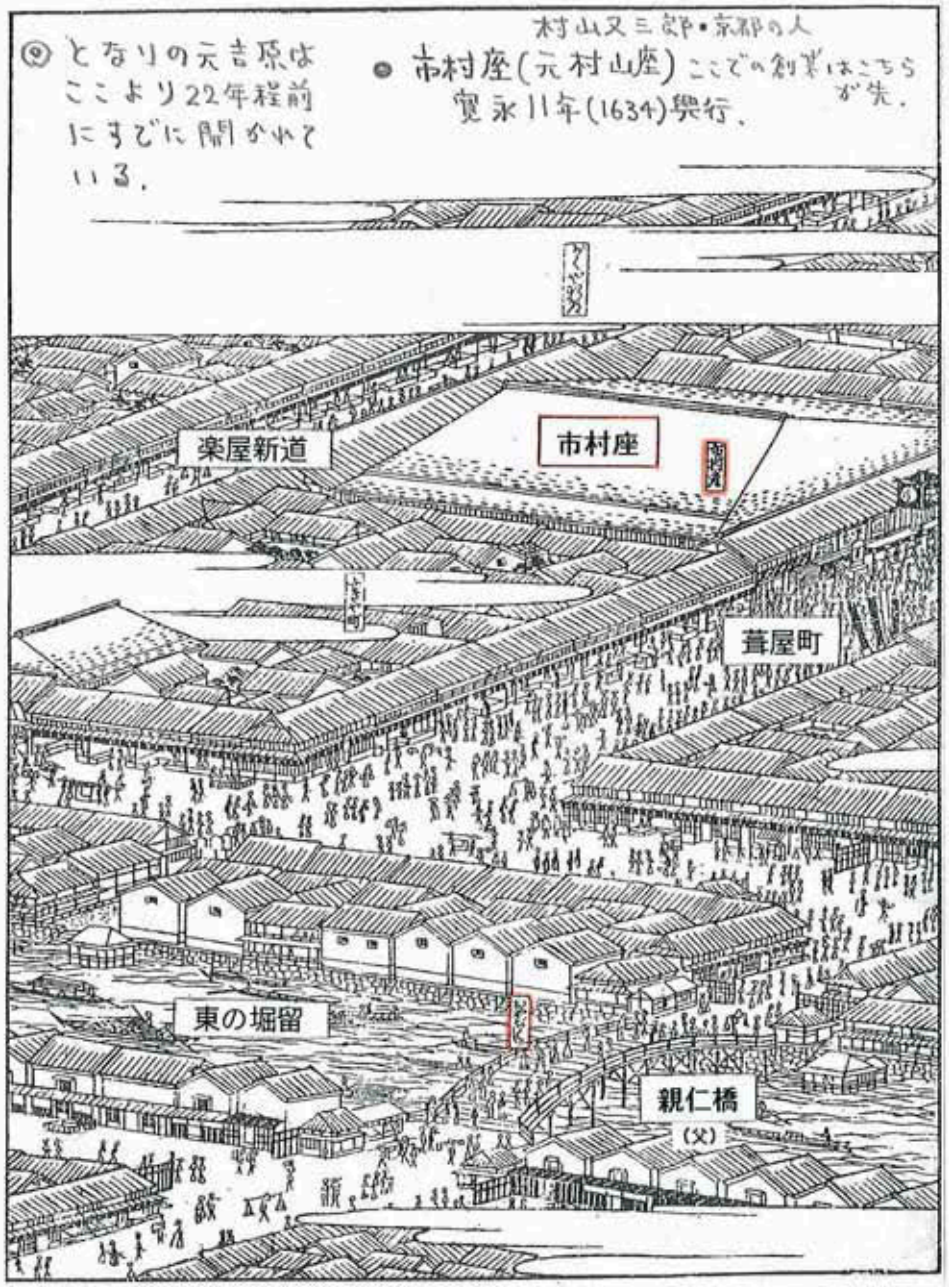
「中村座」は江戸東京博物館に原寸大で展示再現されている。間口が１１間（１９．８m）ある。

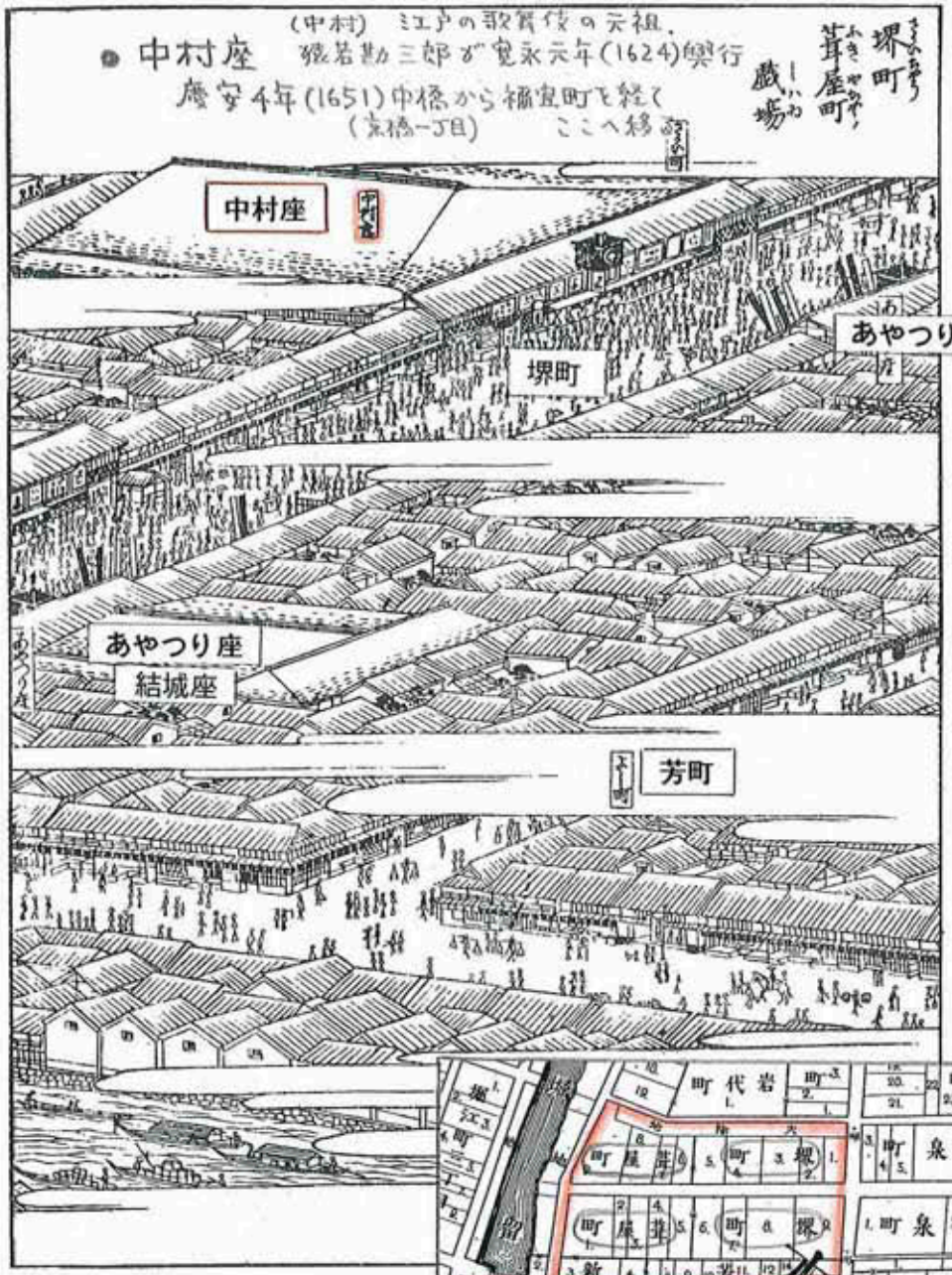
歌舞伎芝居

江戸三座とはここの「中村座」「市村座」と木挽町（銀座６丁目）の「森田座」をいう。

水野忠邦の天保の改革で天保１３年（１８４２）全て浅草の裏の猿若町へ移された。約二百年程ここにあった。

歌舞伎芝居　堺町・葺屋町にあり。中橋より禰宜町へ引き、遂に慶安四年辛卯、今の地に移る。





江戸名所図会　巻一

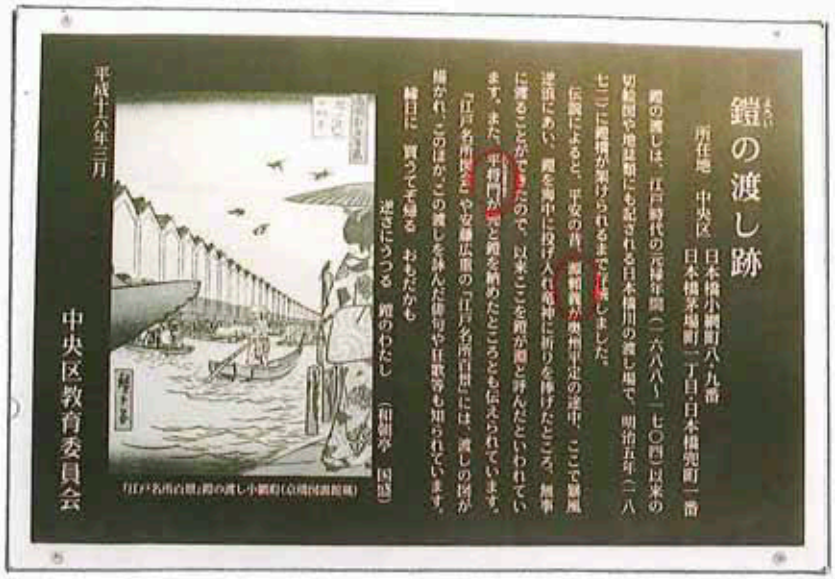
となりの元吉原を開いた庄司甚右衛門が通称「おやじ」と呼ばれていたので付いた名の橋で吉原への通い道の為に架けた。
昭和２４年堀は埋めたてられた。

17 鎧の渡し

＝日本橋川にあった渡し＝

中央区日本橋兜町

平安時代の源頼義や平将門の鎧の話がある渡し場。昔はこの先は海だった。渡し場は明治５年橋が架けられるまであった。



鎧の渡し跡

所在地　中央区　日本橋小網町八・九番
日本橋茅場町一丁目・日本橋兜町一番

鎧の渡しは、江戸時代の元禄年間（一六八八～一七〇四）以来の切絵図や地誌類にも記される日本橋川の渡し場で、明治五年（一八七二）に橋が架けられるまで存続しました。

伝説によると、平安の昔、源頼義が奥州平定の途中、ここで暴風逆浪にあい、鎧を海中に投げ入れ竜神に祈りを捧げたところ、無事に渡ることができたので、以来ここを鎧が淵と呼んだといわれています。また、「平将門が鎧」と鎧を納めたところとも伝えられています。

『江戸名所図会』や安藤広重の『江戸名所百景』には、渡しの図が描かれ、このほかこの渡しを詠んだ俳句や狂歌等も知られています。

縁日に　買うて走るる　おもだかも
迷さにうつる　鎧のわたし　（稲垣亭　国慈）

『江戸名所百景』鎧の渡し小網町（京都国立博物館蔵）

平成十六年三月

中央区教育委員会

橋のたもとにある説明板

『広重名所江戸百景』

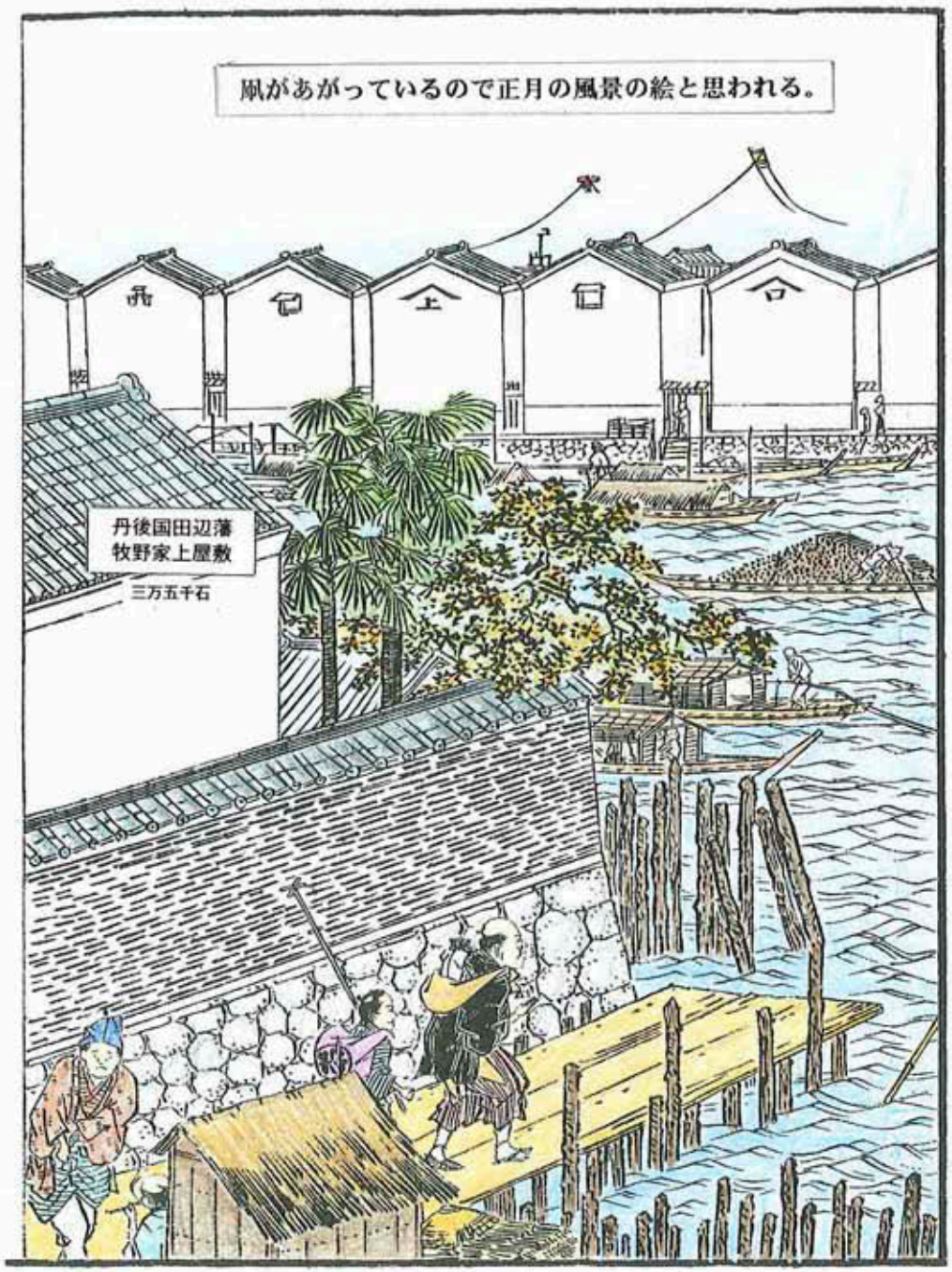
『江戸東京地形の謎』

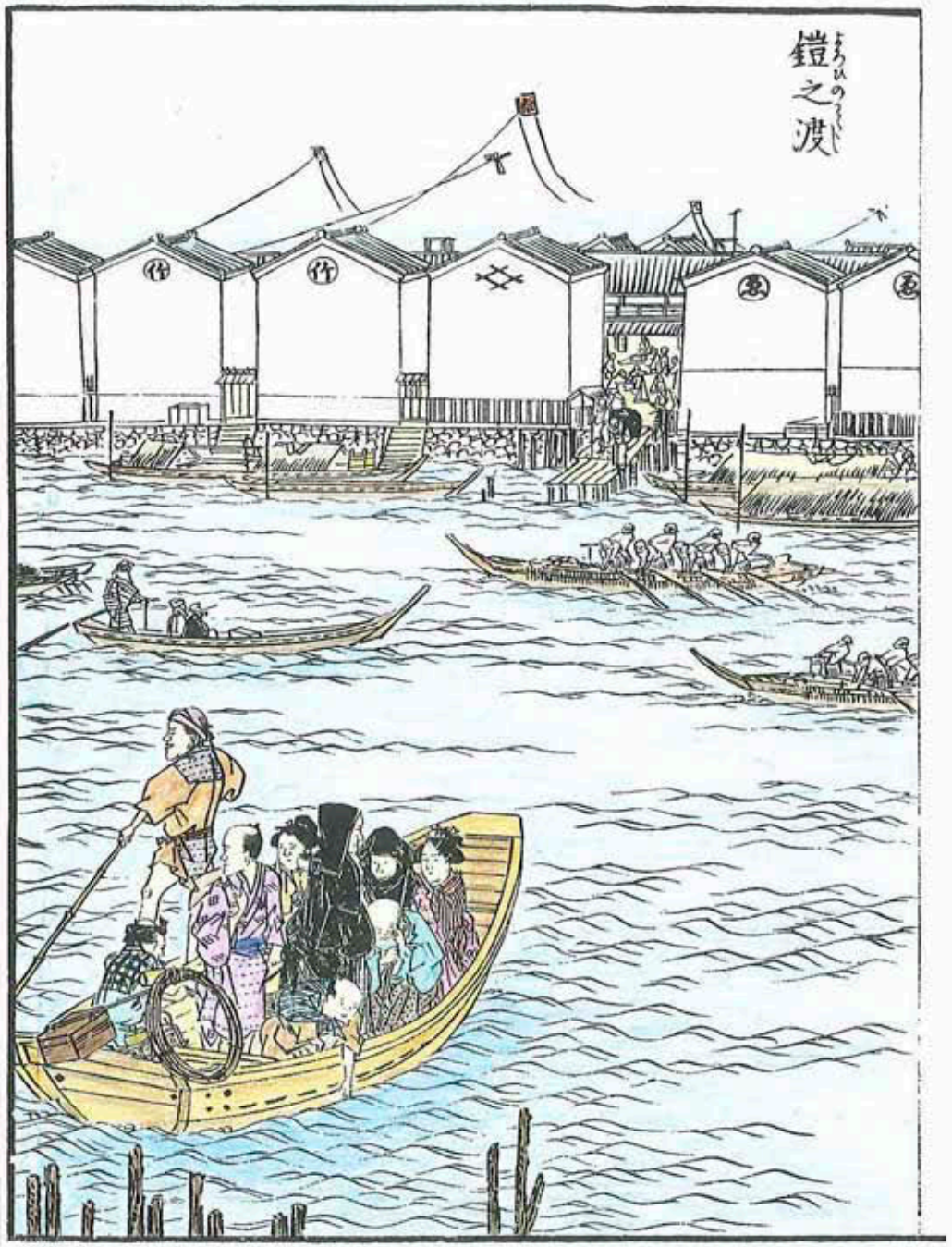
鎧の渡し

向う岸には小網町の船荷蔵が続いている。下の小屋は船賃所で今船賃を払っている人がいる。

左は京都丹後国田辺藩の牧野家の上屋敷の倉で、屋敷の中にあった兜神社が今でも近くにある。

鎧の渡 茅場町牧野家の後を云ふ。此所より小網町への船渡をしか唱へたり。往古は大江なりしとなり。



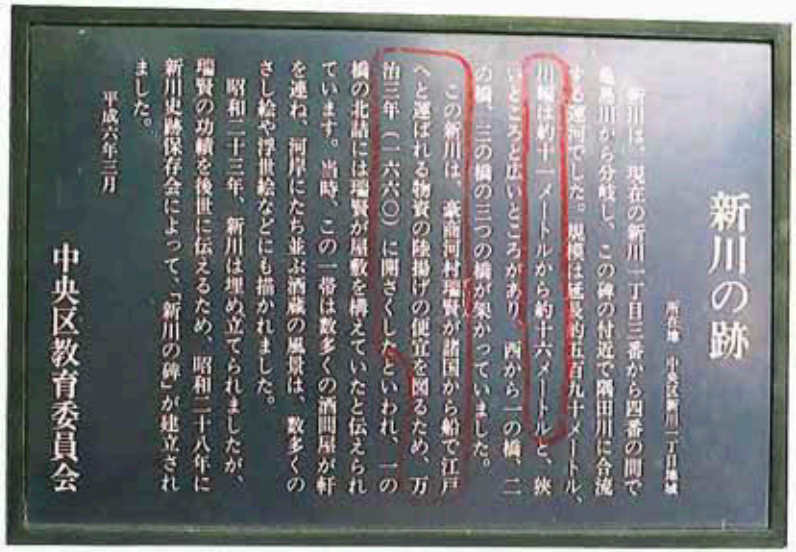


18 新川酒問屋

中央区新川一丁目

＝河村瑞賢が開いた物資運搬用の運河＝

新川大神宮の前の通りでここに堀があった。



新川の跡

所在地　中央区新川二丁目地域

新川は、現在の新川一丁目三番から四番の間で亀島川から分岐し、この碑の付近で隅田川に合流する運河でした。規模は延長約五百九十メートル、川幅は約十一メートルから約十六メートルと、狭いところと広いところがあり、西から一の橋、二の橋、三の橋の三つの橋が架かっていました。

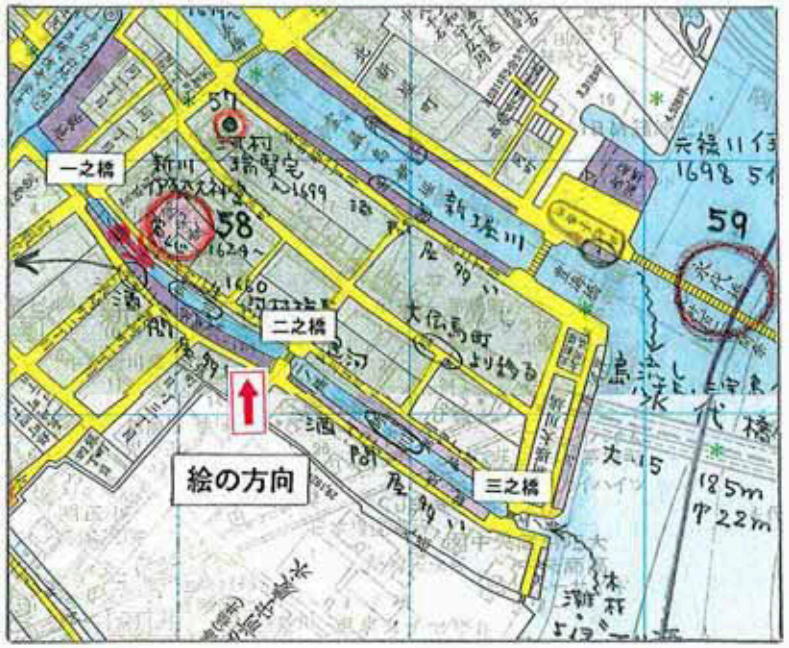
この新川は、豪商河村瑞賢が諸国から船で江戸へと運ばれる物資の陸揚げの便宜を図るため、万治三年（一六六〇）に開さくしたといわれ、一の橋の北詰には瑞賢が屋敷を構えていたと伝えられています。当時、この一帯は数多くの酒問屋が軒を連ね、河岸にたち並ぶ酒蔵の風景は、数多くのさし絵や浮世絵などにも描かれました。

昭和二十三年、新川は埋め立てられましたが、瑞賢の功績を後世に伝えるため、昭和二十八年に新川史蹟保存会によって、「新川の碑」が建立されました。

平成六年三月

中央区教育委員会

河口の公園にある説明板。

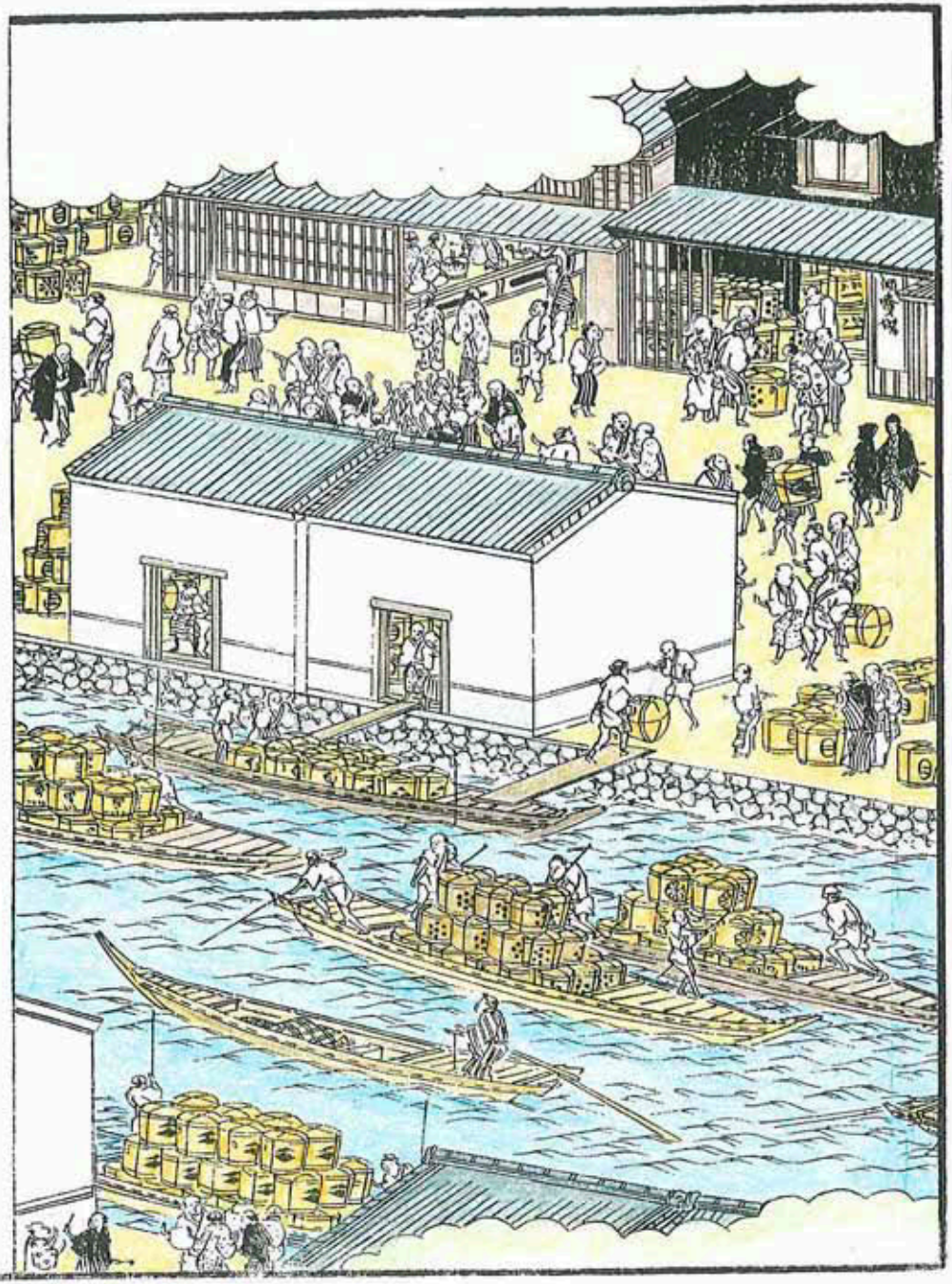


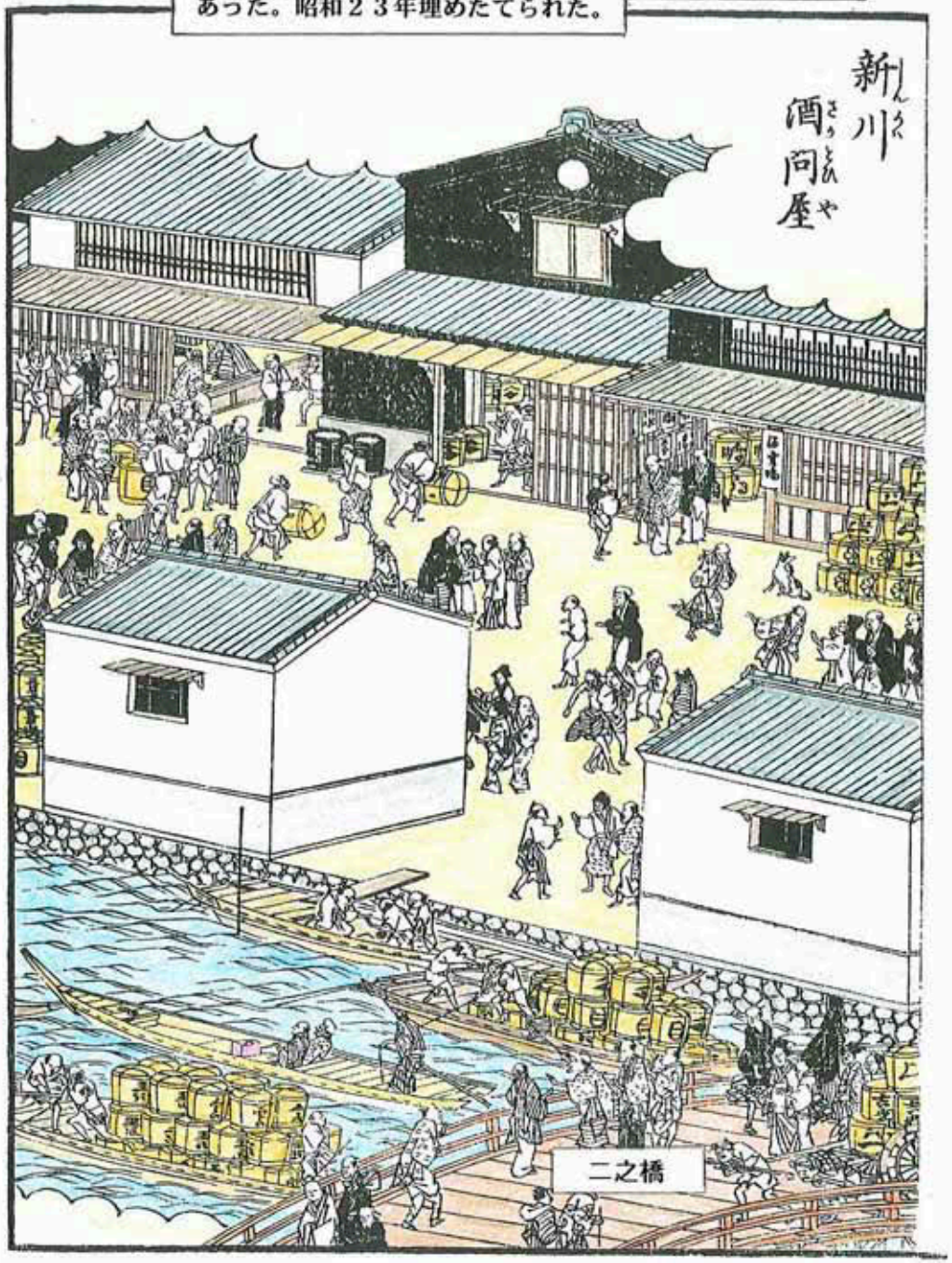
安政年間（１８５４～１８６０）の頃の江戸図。『江戸情報地図』

新川酒問屋

堀の両側には酒問屋が多く、上方から運ばれて来た酒の酒蔵が並んでいる。

万治３年（１６６０）伊勢の出の豪商河村瑞賢が開削したといわれる堀で長さ６００m、幅１５m程あり屋敷もここあった。昭和２３年埋めたてられた。





隨見屋敷　同所新川一の橋の北詰、鹽町の邊其舊地なりといへり。

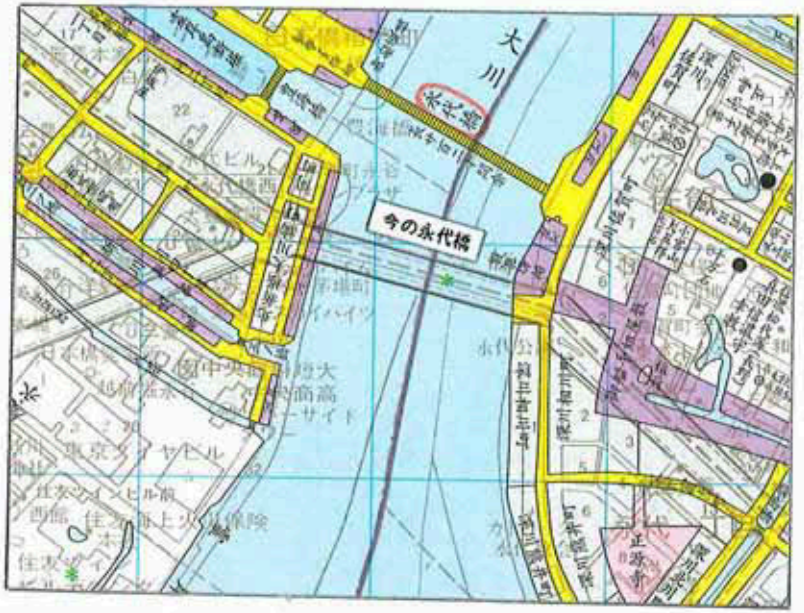
川村隨見は、諸國の水土を考ふるに精しうして、大に世に勳功あり。海を築き川を掘り、田畑を開發す。

19 永代橋

中央区新川一丁目

＝隅田川で4番目に架けられた橋＝

絵と同じ方向から見た写真で、左が日本橋川の河口。



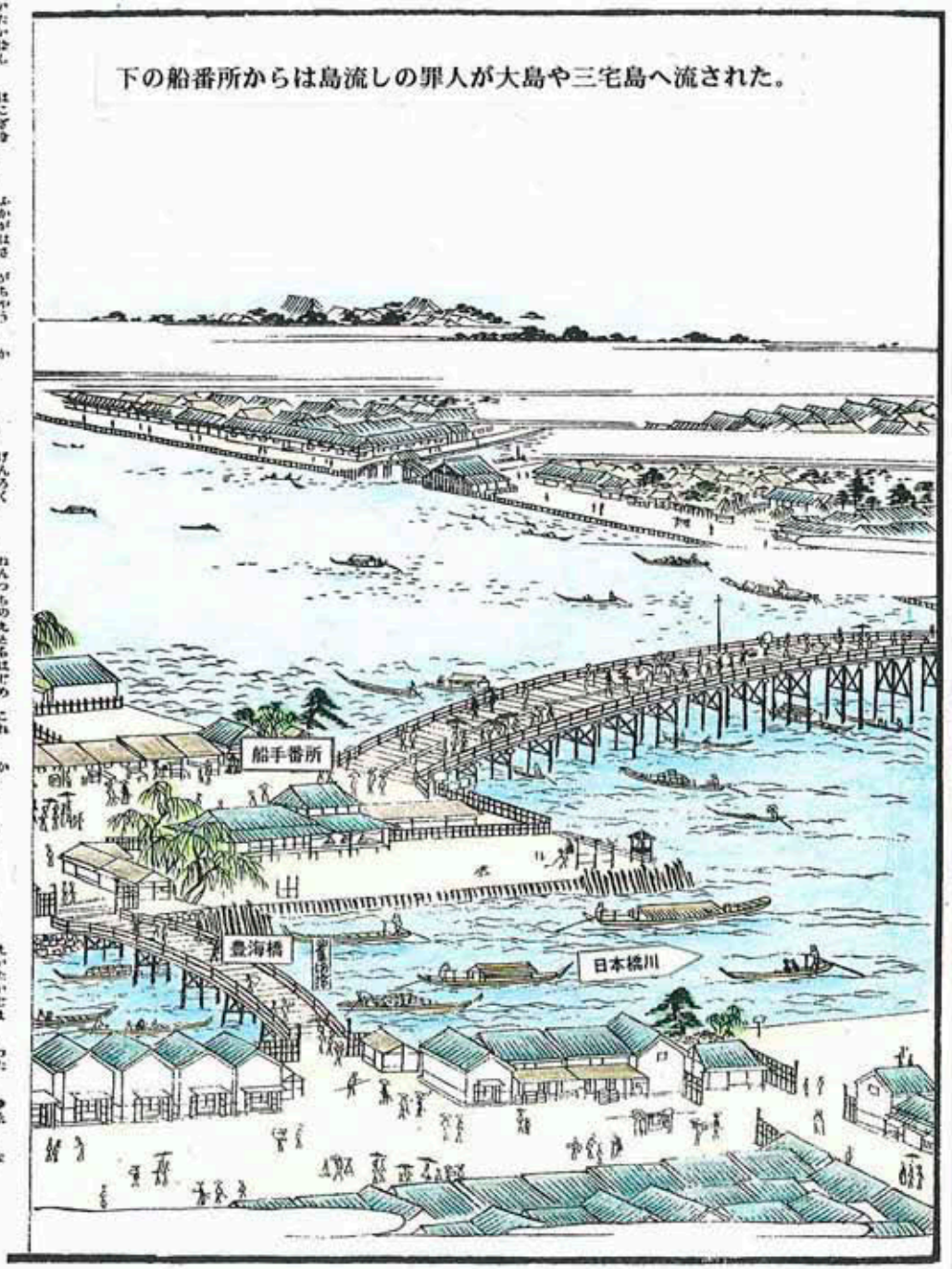
昔の橋は今の橋より約１００m程北側にあった。
東側にあった永代島の名をとって付けた。

現在の橋は震災のあと大正１５年に架けられたもので
長さ１８５m、幅２２mある。

永代橋

元禄１１年（１６９８）に架けられた木製の大橋。長さ百十間（約２００m）幅三間一尺（約５．８m）ある。

永代橋　箱崎より深川佐賀町に掛くる。元祿十一年戊寅始て是を架せしめらる。永代島に架す故に名とす。長凡百十間餘あり。此所は諸國への廻船輻湊の要津たる故に、橋上至て高し。



20 佃島

中央区佃一～二丁目

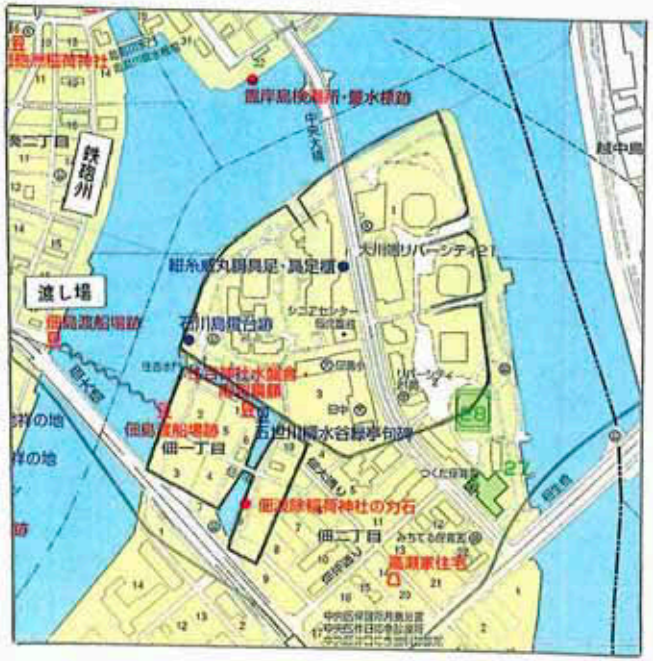
＝江戸時代から続く佃煮の発祥地＝

絵と同じ方向の鉄砲州側から見た写真。

佃煮の「天安」天保年間に安吉さんが開いたのでこの名が付いた。

慶応２年（１８６６）設置された石川島の燈台。

石川島は松平定信の寛政の改革で人足寄場が作られ、その後幕末にはここに造船所が作られた。



昭和２５年埋めたてられ月島が出来た。ここに石川島播磨重工があったが昭和５４年移転した。

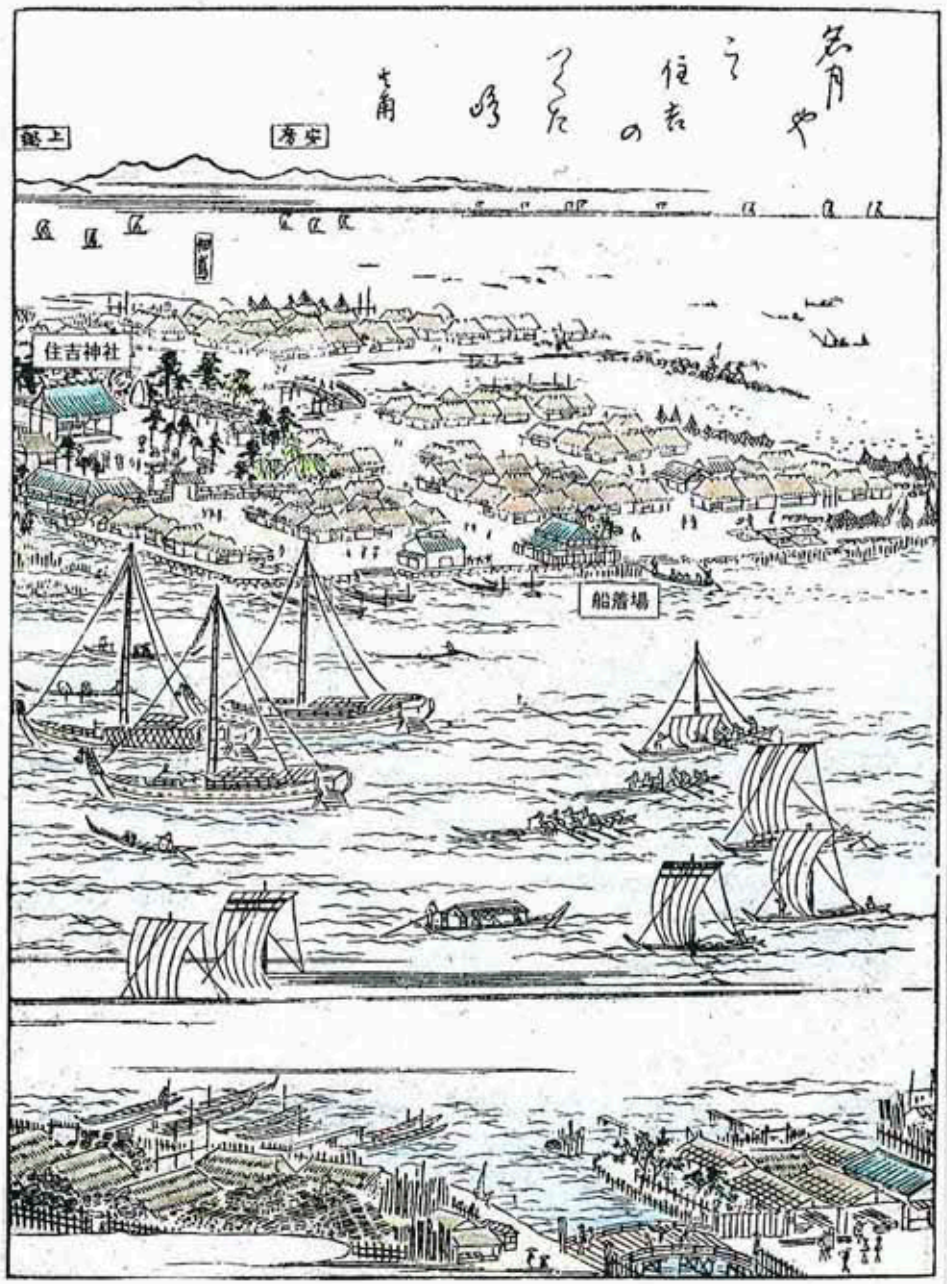
佃島

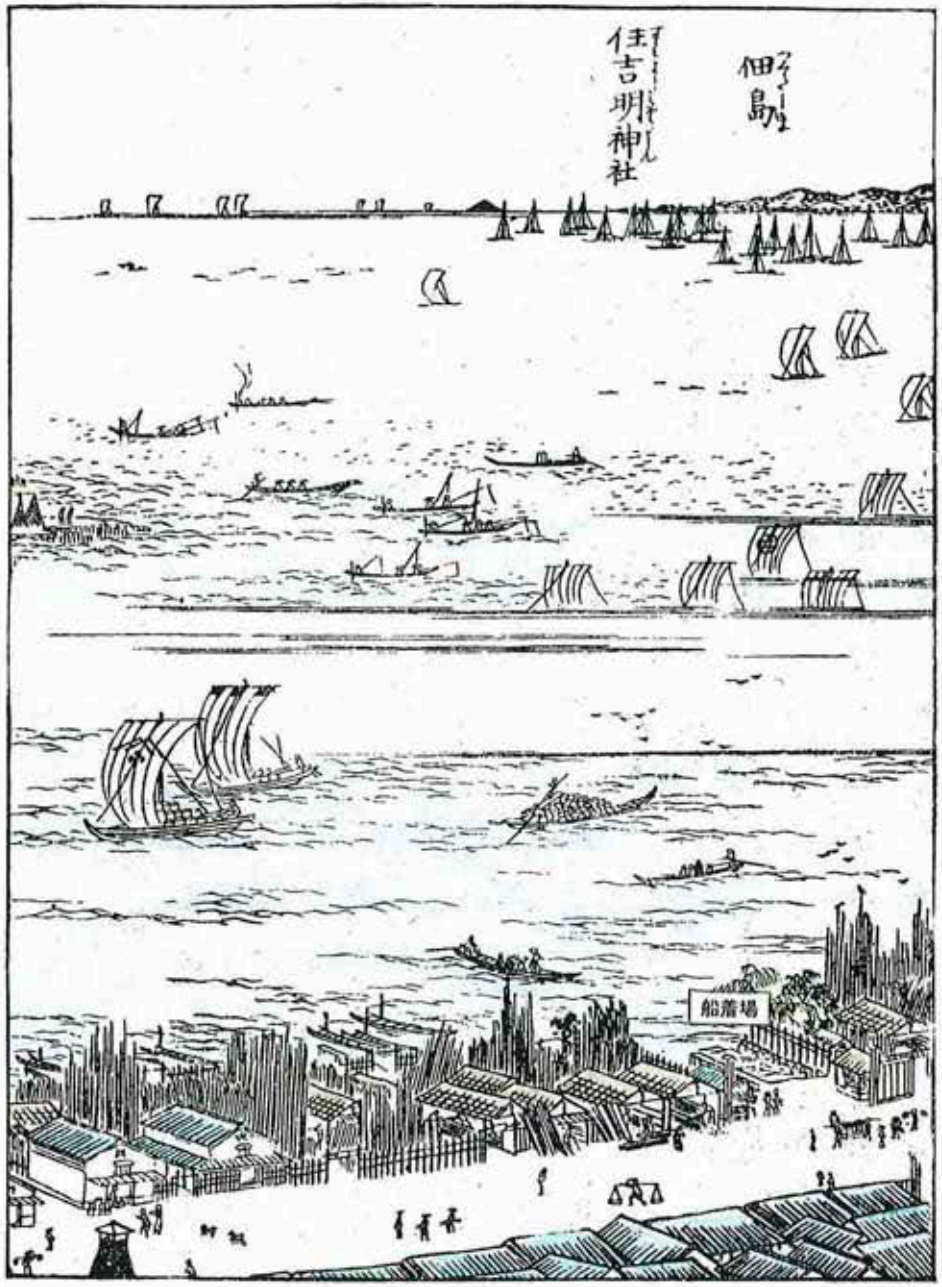
住吉神社は正保３年（１６４６）大阪の本社を勧請した。

江戸時代前期の寛永年間（１６２４～４４）家康の命で摂津国の佃村から移住した漁民達が開拓した島。

佃島、鐵砲洲に傍ひたる孤島をいふ。

然るに寛永年間、鐵砲洲の東の干潟、百間四方の地を賜り、正保元年二月漁家を立て並べて、本國佃村の名を採りて、卽佃島と號く。





渡し場は正保２年（１６４５）から始まり、昭和３９年佃大橋が出来るまで約３００年程も続いた。

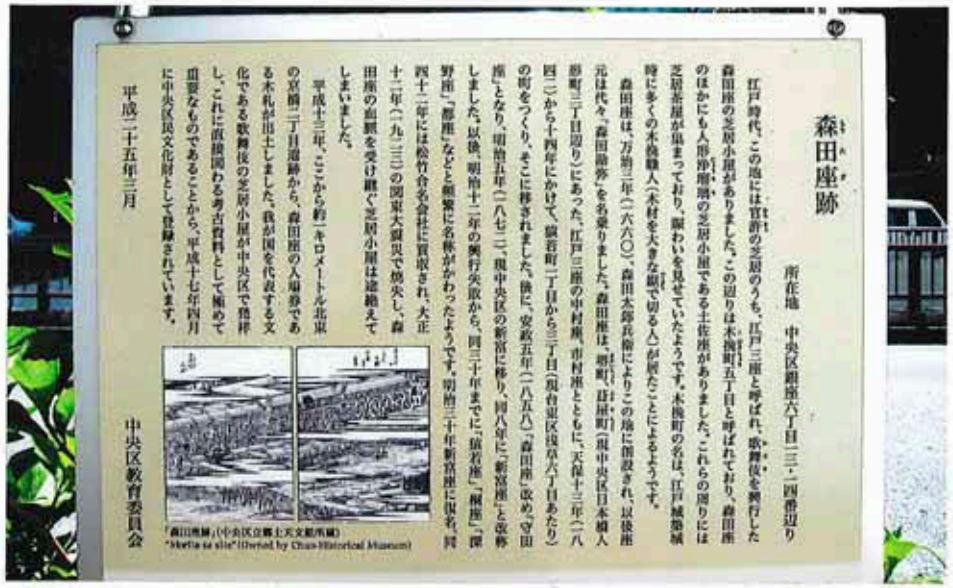
21 木挽町の芝居小屋

＝江戸三座の一つ「森田座」があった所。近くには歌舞伎座や新橋演舞場がある＝

中央区銀座五～八丁目

絵と同じ方向から撮った写真。ここの交差点の所に木挽橋があった。
三十間堀は戦後瓦礫の処理場として昭和２４年埋め立てられた。

木挽町の周辺図。当時は三十間堀が流れていた。「木挽」とは
江戸城修築の際木挽職人が多く住んでいたので付いた地名。



森田座跡

所在地　中央区銀座六丁目一三・一四番辺り

江戸時代、この地には官許の芝居のうち、江戸三座と呼ばれ、歌舞伎を興行した森田座の芝居小屋がありました。この辺りは木挽町五丁目と呼ばれており、森田座のほかにも人形浄瑠璃の芝居小屋である土佐座がありました。これらの周りには芝居茶屋が集まっており、賑わいを見せていたようです。木挽町の名は、江戸城築城時に多くの木曳職人（木材を大きな鋸で切る人）が居たことによるようです。

森田座は、万治三年（一六六〇）、森田太郎兵衛によりこの地に開設され、以後座元は代々「森田勘弥」を名乗りました。森田座は、猿町、芝居町（現中央区日本橋人形町三丁目辺り）にあった、江戸三座の中村座、市村座とともに、天保十三年（一八四二）から十四年にかけて、猿若町二丁目から三丁目（現台東区浅草六丁目あたり）の町をつくり、そこに移されました。後に、安政五年（一八五八）「森田座」改め「守田座」となり、明治五年（一八七二）、現中央区の新宮に移り、同八年に「新富座」と改称しました。以後、明治十二年の興行失敗から、同三十年までに「猿若座」、「桜座」、「深野座」、「都座」などと頻繁に名称がかわったようです。明治三十年新富座に復名、同四十二年には松竹合名会社に買収され、大正十二年（一九二三）の関東大震災で焼失し、森田座の血統を受け継ぐ芝居小屋は途絶えてしまいました。

平成十三年、ここから約一キロメートル北東の京橋二丁目遺跡から、森田座の入場券である木札が出土しました。我が国を代表する文化である歌舞伎の芝居小屋が中央区で発掘し、これに直接関わる考古資料として極めて重要なものであることから、平成十七年四月に中央区民文化財として登録されています。

平成二十五年三月

中央区教育委員会

「森田座跡」（中央区立郷土天文館所蔵）
"Shetia-za site" (Owned by Chuo Historical Museum)

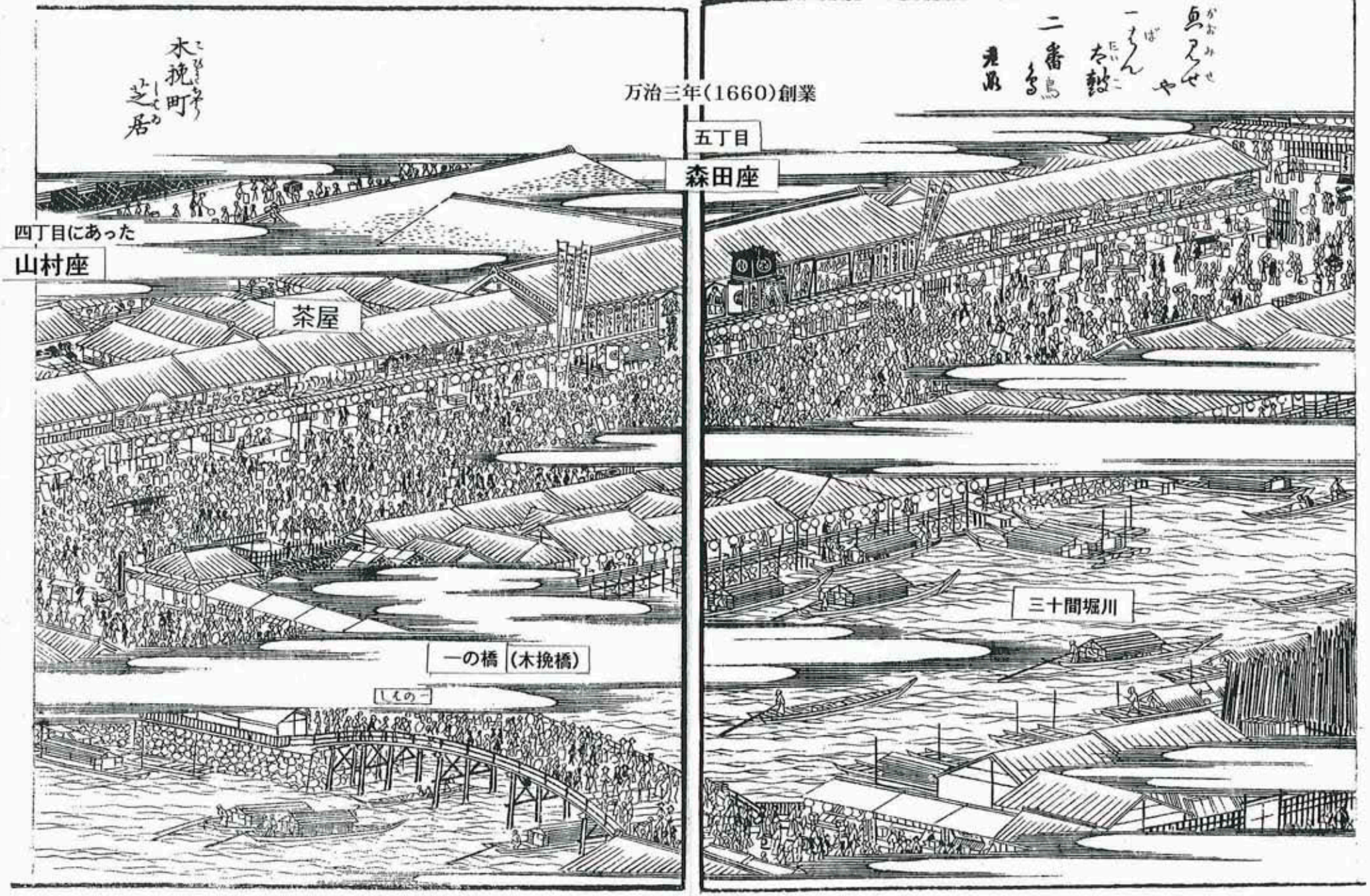
昭和通り沿いに森田座の説明板が建っている。

令和2年6月9日 撮影

木挽町の芝居小屋

水野忠邦の天保の改革により、同１４年（１８４３）全て浅草の猿若町へ移された。江戸の初期からここに１８０年近くあった。その後明治４２年松竹に買収された。

「江戸三座」とは、この「森田座」と人形町の「中村座」「市村座」をいう。山村座は江島生島事件で廃止された。正徳4年(1714)



歌舞妓芝居　木挽町五丁目にあり。今森田勘弥の歌舞妓芝居、綿々として相續す。

22 西本願寺（築地本願寺）

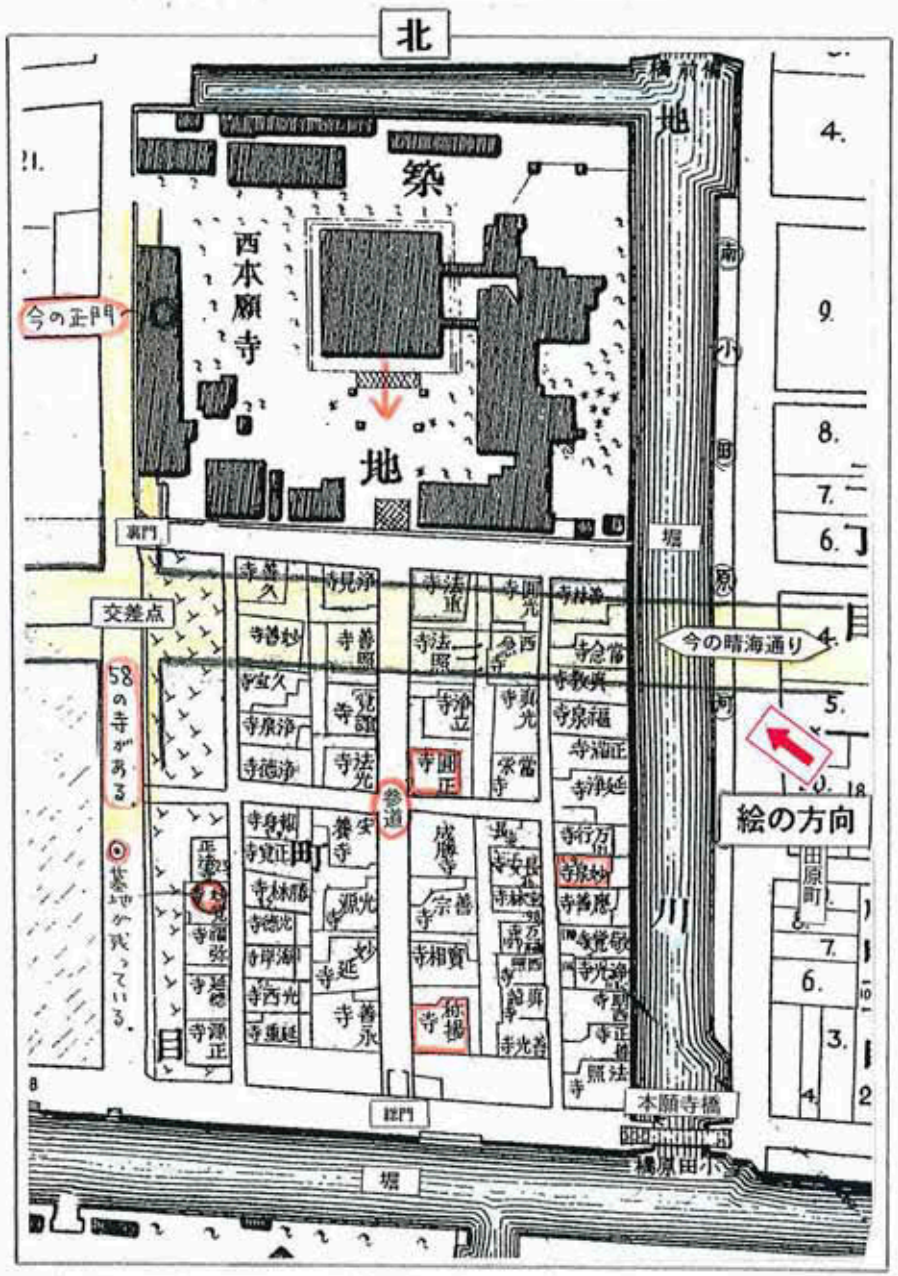
中央区築地三・六丁目

＝京都の西本願寺の別院＝

元の寺は、大正１２年の震災で焼失。その後昭和９年に西の京都の方に向けて建て替えられ、古代インドの様式に変わった。

昭和１０年日本橋から築地へ移った魚市場は場外市場も多くの人で賑わっている。約４００軒もの店があるという。

大正の大地震の前は南向きに建っていた。



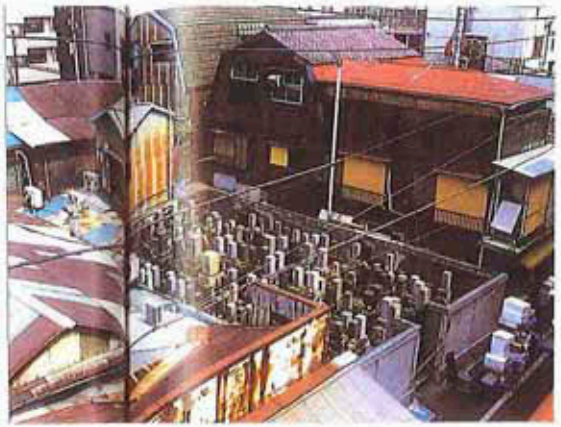
現在の場外市場になる前は５８もの子院で埋まっていた。
今でもこの内の３つの寺が残っている。西側には墓もある。

『東京名所図会』　明治３４年

西本願寺

元和3年（1610）日本橋横山町に創建されたが、明暦3年（1657）の大火のあと今の築地に移った。浄土真宗。

西本願寺　始横山町二丁目の南側裏通りにありしを、明暦大火の後此地に移さる。



今でも場外市場の西側には墓が残っている。

今もそのまま残っている「円正寺」気の付かない人が多い。

《港　区》

23　愛宕神社

港区愛宕一―五―三

＝江戸の景勝地で、自然の地形の山＝

曲木平九郎が馬で駈け登ったという、８６段ある急な階段の男坂とやゝゆるい女坂。

広重『名所江戸百景』　芝愛宕山

当時は東京湾から房総半島まで見わたせたという。

山頂にある愛宕神社。祭神は火伏の神の火産霊命（ほむすびのみこと）

愛宕神社

標高２６ｍの高台にある神社。慶長８年（１６０３）創建。
今はＮＨＫの放送博物館がある。前の通りは祝田通り。

愛宕山權現社

慶長八年癸卯の夏、台命によつて當山を開き、給ふ。

抑、當山は懸岸壁立して空を凌ぎ、六十八級の石階は、疊々として雲を揷むが如く聳然たり。山頂は松柏鬱茂し、夏日といへどもこゝに登れば、涼風凛々としてさながら炎暑をわする。最美景の地なり。